

令和5年度

施政方針

3月議会定例会の開会初日。冒頭のあいさつに立った麻生町長は、令和5年度に向けた所信を表明しました。



転換期を迎えるコロナ対策

新型コロナウイルス感染拡大から3年が経ちます。この間、町ではワクチン接種や各種交付金をはじめ、さまざまな角度から対策を行ってまいりました。

5月8日には、季節性インフルエンザと同等の体制へ移行されます。これにより、新型コロナウイルスへの危機対応は転換期を迎え、社会経済活動も大幅な対策緩和に踏み切っていくものと思われれます。

空港との共栄に向けて

成田空港の更なる機能強化や現在検討中の新しい成田空港構想においても、空港周辺地域と一体的に整備していくという機運の醸成を感じています。

空港周辺が、空港の効果を最

大限發揮するための機能を補完し、地域一帯が面的に価値を創り上げていくことが必要です。

当町においても、空港と一体的なまちづくりを進めることが、持続可能な町の未来を創造していくものと確信しています。

一方、航空機の騒音による障害など、地域の課題については、さらに検討していかなければならないと認識しております。

新しいまちづくりや空港の機能強化は、町民の皆さまのご理解のもと推進していくべきものです。今以上に、地域の意見を聞き、まちづくりの方針を定めてまいります。

拠点整備の推進

拠点整備においては、新しいまちづくりの根幹となる大切な時期です。小池地区は、計画区域内の都市公園や道路整備に向け、先行して用地購入や調査業務などを進めるとともに、教育や子育て関連施設の方角性も示してまいりたいと存じます。

川津場地区の住宅系拠点整備は、官民連携事業として順調に進んでおり、今年度は開発許可や農地転用許可など、各種手続きが進められます。

千代田地区は、成田空港の新しい施設配置の状況によって大きく影響を受ける地域です。町内でも非常にポテンシャルの高い場所ですので、今後最大限の効果を得るために、基本構想の見直しを行います。

また、農業振興の観点では、空港の機能強化にかかる民間投資をしっかりと受け止めるために、今年度から2年間をかけて「立地適正化計画」を立てます。

当町は、歴史的にも地政学的にも農業の町です。食料安全保障の面からも、農地をしっかりと守り、食料の確保や農業振興にも寄与してまいります。

今後のまちづくりの方針

今後のまちづくりの方針といえます。空港で働く方々に住んでもらいたい、芝山の子どもたちには、空港で働いて町内に住んでもらいたいと考えております。この積み重ねが、出生数や人口の増加につながっていくものと思います。

そのためには、教育や子育て、福祉、公共交通、農業、商工など、それぞれの課題に対し皆さまと知恵を出し合って進んでまいりたいと存じます。